

【がん種】 **大腸癌**  
【レジメン名】 mFOLFOX6+Pmab  
【登録番号】 160529  
【1コースの期間】 2週間  
【総コース数】 進行・再発:PDまで  
【催吐性リスク】 中等度:エルブラット、軽度:5-FU、最小度:ペクティビックス  
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):エルブラット(漏出時の冷却禁止)、5-FU、ノンビシカント(非壊死性):ペクティビックス  
【投与量に制限のある薬剤】 なし  
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、低マグネシウム血症、注入に伴う反応、アレルギー反応、疲労、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎、味覚異常、下痢、便秘、末梢性感覚ニューロパチー、末梢性運動ニューロパチー、注射部位反応、ざ瘡様皮疹、そう痒症、皮膚乾燥、皮膚疼痛、爪囲炎  
【必要な検査】 編集中  
【根拠論文】 J Clin Oncol 28:4697-4705, 2010. N Engl J Med 369:1023-1034, 2013. Ann Oncol 25:1346-1355, 2014.

【点滴の時間】 [day1~]50時間35分  
【費用】 編集中  
【その他】 対象患者:RAS遺伝子変異ー。原則、CVポートを増設して治療を行う。ペクティビックス:調製後6時間以内に投与を終了し、1000mgを超える場合には90分で点滴静注する。  
インフューザーポンプの使用可否:CVポートを造設している、外来で治療する場合(入院導入後に外来へ移行する場合には初回入院時も使用可能、外来に移行せずに入院で治療を継続する場合には使用不可)。

インフューザーポンプ使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○				
3	生理食塩液 100mL ペクティビックス点滴静注	1 B 6 mg/kg	側管	1時間 フィルター使用	○				
4	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 5のエルブラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL エルブラット点滴静注液 4のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
7	5-FU注	2400 mg/m2	側管	46時間 インフューザーポンプ使用	○				
8	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		

インフューザーポンプ未使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○				
3	生理食塩液 100mL ペクティビックス点滴静注	1 B 6 mg/kg	側管	1時間 フィルター使用	○				
4	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 5のエルブラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL エルブラット点滴静注液 4のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
7	生理食塩液 500mL 5-FU注	1 B 2400 mg/m2	側管	46時間 フィルター使用	○				
8	生理食塩液 100mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ		○			
9	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		